

ワンランク上の力ある授業の創造

指導のすすめ

ゆっくり、あせらず確かなものに

～子どもたちの学びを保障し、「教えた」ではなく「力をつけた」という授業の組立を～
 「授業には『めあて』『まとめ』があることが、授業成立の基本」

導入段階

【関心・意欲・態度】

何を教えないといけないのかを事前にリストアップ
 「教科書がない場合、自分ならどのような活動を行うか」の発想が大事
 矛盾や技能を引き出す場の構成、学習目的の明確化と意欲の高揚などが導入における大切なポイントである。

- ↓ 学ぶ意欲をもたせる
- 学習課題をもたせる
- 授業のめあてをもたせる



展開段階

【思考・判断・表現】

【板書】後でノートをどう活用するかを見通して（子どもにとっては参考書）
 【説明】一方的に説明された時点では何も分かっていない（短めに）
 「自分なりの考えをもつ」活動を育てていく授業を大切にしなければならない。

- ↓ 自分なりの考えをもたせる
- 自分で考える、自分で判断する
- 考える・比べる・目当てをもたせる
- 「もうないか」「わかりましたか」「Do you understand?」を禁句に・・・本当に理解しているかは疑問



終末段階(授業のまとめ方)

【技能】【知識・理解】

何を身につけたかを見取る
 1時間の授業の中でややもするとおろそかになるのが「授業のまとめ」の仕方である。子どもたちの学びを見取ることが「力をつけた授業」には欠かすことのできないものである。「わかる授業」、「できる授業」の日常化。

- ↓ 解決された課題を再確認する
- 内容の定着化を図る・・・「ドリル・ワークシート等で類似問題を」
- 主眼の達成度を明確にする
- まとめる内容：
 わかったこと（知識・理解）、できるようになったこと（技能）、工夫したこと（能力）、努力したこと（意欲）

授業とリンクした課題(宿題)

内容の定着を図る宿題を

その日に学習した内容とリンクした課題(宿題)を提示することで、学んだ内容の定着が図られる。



その日に学んだ内容の定着を図るための課題(宿題)を提供する。
 その日のうちにその日学んだ内容の復習をさせる。
 家庭での学習習慣の確立を図る。
 自主的な学習を促すことも必要であるが、まずは学校の方から授業と連動した課題(宿題)を提供する。